



新潟県東蒲原地方におけるキバシリの分布と繁殖習性

渡部 通

〒959-4403 新潟県東蒲原郡津川町常浪甲1239-1 E-mail: watanabe@niigata.jwa.or.jp

はじめに

日本産キバシリ *Certhia familiaris* はキタキバシリ *C. f. daurica*. とキバシリ *C. f. japonica* の2亜種に分類され、前者は北海道に、後者は本州、四国および九州に分布している（日本鳥学会 1974, 2000）。北海道では平地の針葉樹林や落葉広葉樹林にも分布しているが、本州以南では、おもに標高1000m以上の針葉樹林や混交林にみられ、冬期は山麓へ標行するものもいる（高野 1982, 日本鳥学会 2000）。しかし、目立たないためか、本種の分布や生活に関する情報はごく少ない。本州の中緯度に位置する新潟県でも分布に関する記録は9例と少なく、その記録をみるかぎりでは、これまで本州中部における報告例と異なる点がある。そこで、これまでの観察結果（渡部 1989, 1990, 1992, 1993, 1999）に基づき、新潟県北部東蒲原地方における本種の分布や繁殖習性などを報告する。

この報文をまとめるにあたり、ご指導をいただいた日本歯科大学新潟歯学部千葉晃教授（生物学）に心より御礼申し上げます。

調査地と調査方法

調査地の東蒲原郡上川村（37°37'N, 139°27'E）および鹿瀬町（37°41'N, 139°29'E）は共に福島県会津地方に隣接した山地である。いずれの調査地も標高50～1050mの範囲にあり、溪谷や溪流を伴う急峻な地形がみられる。標高70～200mの範囲には集落が点在し、コナラを中心とした二次林とスギ人工林が多く存在している。標高500m以上の沢筋や緩傾斜地にはよく発達したブナ天然林が残存し、高木層にはトチやミズナラが認められ、亜高木層にはイタヤカエデが、また低木層にはリョウブやコシアブラなどが生育している。林床にはヒメアオキとチシマザサが優占し、急峻な尾根にはキタゴヨウや天然スギなど針葉樹が列をなして生育している。冬の積雪量は多く、調査地に近い津川町では最深積雪の30年間の平均値が142cmになる（新潟地方气象台 1997）。野外調査は、1985年3月～1992年8月の期間は上川村において、また1993年2月～1999年6月の期間は鹿瀬町において実施した。休日を中心に、2月下旬から残雪の多い山地に入り、観察機器とワカンを携行して生息が予想される山林を中心に注意深く探索した。3～4月は営巣期および育雛期にあたるため、特に巣の発見に努めた。育雛期は雛鳥の鳴き声が頻繁に聞かれるため営巣場所の特定は比較的容易であったが、6月以降

2001年10月9日 受理

キーワード：キバシリ, 低山帯, 新潟県, 繁殖, 分布

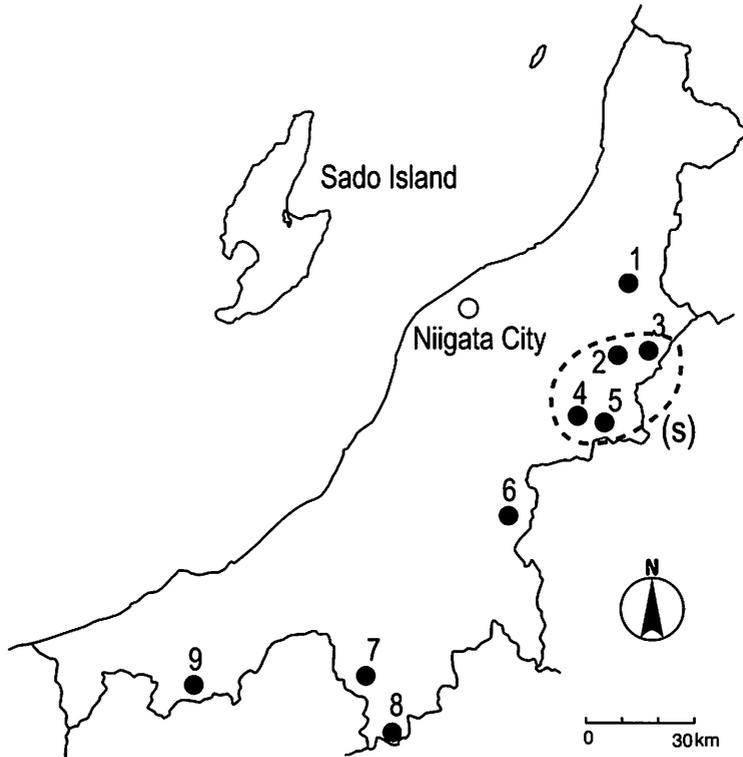


図1. 新潟県におけるキバシリの分布図。S：調査地，1. 黒川村，2. 鹿瀬町，3. 鹿瀬町，4. 上川村，5. 上川村，6. 浅草岳，7. 苗場山，8. 三国峠，9. 妙高山。

Fig. 1. Distribution of Eurasian Tree Creeper *Certhia familiaris* in Niigata Prefecture and the study area (S). 1 Kurokawa, 2 and 3 Kanose, 4 and 5 Kamikawa, 6 Asakusadake, 7 Naebasan, 8 Mikuni pass, 9 Miyohkosan

は姿を確認するのも困難をきわめた。

結果および考察

生息地の標高と植生および分布

東蒲原地方におけるキバシリの生息域は鹿瀬町日出谷（標高90m）から上川村日尊の倉山（1050m）の範囲にあり，その植生は標高200mまではスギ人工林とコナラを中心とした二次林が多く，標高500m以上の沢筋や緩傾斜地にはよく発達したブナ天然林が残存している。このように調査地では，集落周辺のスギ人工林，コナラなどの二次林およびブナ天然林にキバシリが生息している。この結果を同じ本州中部地方の北アルプスの例（1200～2200mの亜高山性針葉樹林；清棲 1965），志賀高原の例（1600～1700mの針葉樹林および混交林；羽田・中村 1967，羽田・山田 1967，羽田ほか 1968，三石 1973，中村 1983），および苗場山の例（1640mの混交林；国立公園協会 1985）と比べると，調査地における本種の生息域の標高は既知のそ

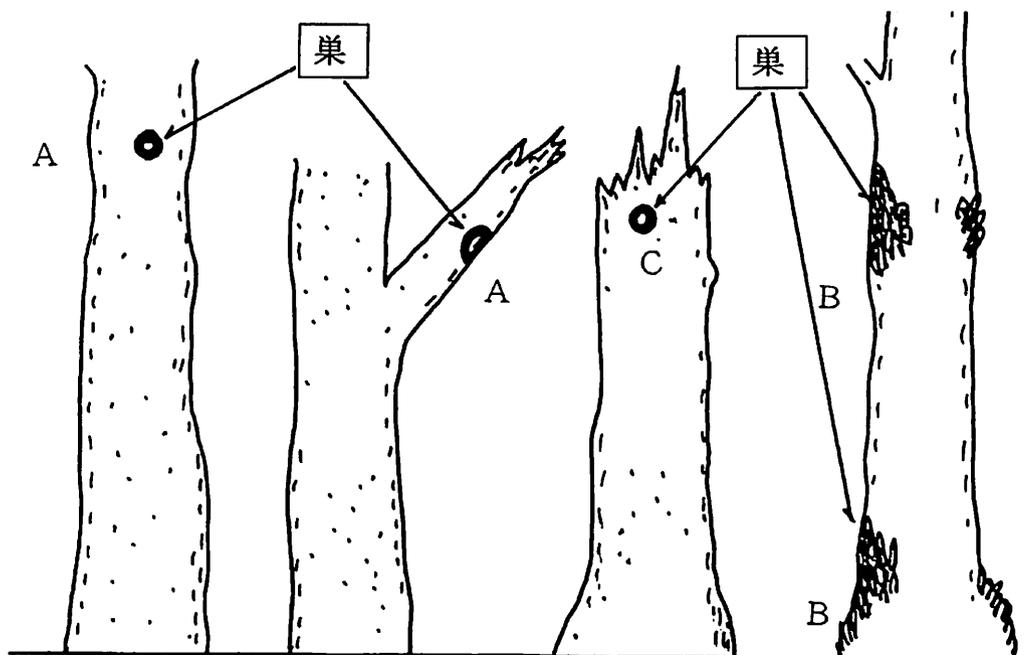


図2. キバシリの営巣部位を示す略図. A: キツツキの古巣, b: 樹皮の脱落した陥没部, c: 枯損木の裂孔部

Fig. 2. Nest site of Tree Creepers in the study area. A: Used nest hole of woodpeckers, B: cavity under the bark, C: natural hollow in a dead tree.

れらよりも低いことがわかった。また、生息域の林相も前述した中部山岳の亜寒帯性針葉樹林とは異なっていた(清棲 1965, 羽田・中村 1967, 羽田・山田 1967, 羽田ほか 1968, 三石 1973, 中村 1983, 樋口ほか 1997)。なお、東蒲原地方のように低い標高地域に本種が生息している事例は近畿地方の和歌山県高野山や京都府比叡山でも知られている(清棲 1965)。本種の生息環境がこのように低い標高地域に移行している理由は不明であるが、調査地においてスギ人工林やスギを交えた広葉樹林が比較的良好に保存されていることはその一因になっている可能性があり、近畿地方における事例が社寺林としてのスギ林が良好に保存されている事と軌を一にしているように思われる。本種の新潟県内における分布地は、北から順に黒川村(新潟県 1982)、鹿瀬町(加藤 1982, 渡部 1993, 1999)、上川村(加藤 1982, 伊藤 1986, 渡部 1989, 1990, 1992)、浅草岳(柳瀬 1982)、苗場山(本間 1970)、三国峠(渡辺 2000)および妙高山(植木 1970)である(図1)。このうち、当該地方と同様な低標高生息地域は黒川村と浅草岳だけにみられ、その他では分布域の標高は当該地より明らかに高かった。

営巣環境

営巣環境、営巣地の標高と林相、営巣木と巣孔の高さおよび方位などについて、図2と表

表 1. 新潟県東蒲原地方におけるキバシリの営巣環境。
Table 1. Notes on the nest sites of Tree Creepers in the study area.

| 観察年月日 Date | 営巣地の林相 Forest type | 標高 asl | 巣孔の方向 Nest direction | 営巣木の樹種 Nest trees | 巣のタイプ Nest type | 胸高直径 DBH | 巣孔高 Nest height |
|---------------|---|-----------|-------------------------|------------------------|---------------------------------|-------------|--------------------|
| A 1989.4.19 | ブナ・コナラ混交林 Beech/Oak forest | 325m | 南東 Southeast | スギ枯損木 Dead cedar | 裂け目 hollow | 30cm | 1.7m |
| B 1990.5.9 | ブナ・トチ混交林 Beech/Horse chestnut forest | 950m | 南 South | ブナ枯木 Dead beech | キツツキの古巣 used woodpecker nest | 100cm | 7.5m |
| C 1990.5.9 | ブナ・トチ混交林 Beech/Horse chestnut forest | 970m | 西 West | ブナ枯木 Dead beech | キツツキの古巣 used woodpecker nest | 80cm | 5.0m |
| D 1991.5.10 | ブナ林 Beech forest | 680m | 南 South | ブナ枯木 Dead beech | キツツキの古巣 used woodpecker nest | 100cm | 6.5m |
| E 1991.5.14 | ブナ林 Beech forest | 1050m | 西 West | ブナ枯木 Dead beech | キツツキの古巣 used woodpecker nest | 100cm | 3.0m |
| F 1993.4.20 | コナラ・スギ混交林 Oak/Cedar forest | 120m | 西 West | キリ枯木 Dead Paulownia | キツツキの古巣 used woodpecker nest | 15cm | 1.8m |
| G 1997.4.19 | コナラ・スギ混交林 Oak/Cedar forest | 150m | 南 South | スギ生木 Cedar | 樹皮の裂け目 cavity under the bark | 80cm | 0.3m |
| H 1998.2.26 | コナラ林 Oak forest | 250m | 南東 Southeast | コナラ枯木 Dead oak | キツツキの古巣 used woodpecker nest | 30cm | 2.5m |
| I 1999.4.26 | スギ・コナラ混交林 Cedar/Oak forest | 110m | 南東 Southeast | スギ生木 Cedar | 樹皮の裂け目 cavity under the bark | 95cm | 3.5m |

1にまとめた。営巣地の標高が最も低い例は標高110mで、そこでは巣が集落と隣接したスギ植林地に認められた。一方、落葉広葉樹林（コナラ二次林とミズナラおよびトチが混じるブナ林）で認められた巣4例は標高120～325mの範囲にあり、ほかの4例は標高680～1050mに生育するブナの優勢な落葉広葉樹林内で発見された。巣孔は地上から高さ0.3～7.5mの範囲（平均 3.5 ± 2.4 m, $N = 9$ ）にあり、巣の高さが3.0m以上にあるものはすべてが胸高直径80cm以上のブナの枯損木にあった。地上0.3mに発見された巣はスギの生立木（胸高直径約80cm）に営まれ、樹皮の陥没ないし裂け目を利用したものであった。9例中6例（67%）はキツツキ類の古巣を利用しており、この他、枯損木の裂孔に造られたものが1例、樹皮の陥没部に造られたものが2例認められた。巣孔の方位は、6例が南から南東方向、3例が西方向で、北向きは1つもみられなかった。なお、営巣地の林床斜度は今回調査した範囲では10から30度と概して緩い所が多かった。このように、東蒲原地方における本種の営巣場所は既報（清棲 1965）と概ね一致しており、巣の高さはこれまで報告された0.7-3.0mぐらゐの高さ（清棲 1965）より広い範囲に及ぶことがわかった。つぎに、巣の形状や巣材について雪で倒壊した営巣木1例で調べたところ、巣は腕形で外径10cm内径5cmあり、外装に柔らかいスギの樹皮を多量にもちい、内装には獣毛などを敷いていた。この結果は清棲（1965）の観察例と一致した。

繁殖習性

繁殖活動は2月上旬頃からはじまり、この頃から雄はよくさえずり、活発な時は1分間あたり9～15回もくり返した。さえずりは樹幹を移動しながら行なわれることが多く、最盛期には幹に垂直に止まった状態でも鳴き続けた。つがい形成期にあたる2月上旬から3月下旬の頃は、雌に接近した雄が翼を小刻みに震わせたり、接近しながら小声でさえずったり、さらに雄から雌への求愛給餌も観察された。ヒナへの給餌は通常雌雄交替で行なわれた。ふ化後約10日目とにあたる1993年4月24日の午前8時から1時間の給餌回数は11回におよび、ヒナの糞を運び去る行動が2回観察された。また、別の巣のふ化後約1週間にあたる1998年2月26日の午前10時～11時の給餌回数は12回で、前例と同様な頻度であった。親鳥が給餌のため巣を訪問する場合、直接巣孔に飛来したのは23回のうち2回（10%）と少なく、周辺の樹幹をつぎつぎに移りながら接近したのが23回のうち21回（90%）であった。また、巣の位置が極端に低い例（地上0.3m）では、営巣木に飛来した親鳥が後ろ向きに下がり、巣孔付近で横向きになって給餌した。採食は樹幹で行なわれることが多く、時にはカラ類に混じって枝葉部でも見られた。樹幹で採食する場合は樹皮をすばやく登り、そのあいだに潜む昆虫類を俊敏に捕らえ、嘴一杯にしてから巣へ運んだ。食物は、観察し得た範囲で羽化直後のガ類、クモ類およびアリ類であった。繁殖活動の推移を連続して長期間観察することはできなかったが、ふ化までの日数を約14～15日、巣立ちまでの日数を約14～15日とした清棲（1965）の数値を参考にして今回調べた9巣の事例を整理すると、抱卵開始日は2月上旬が1例、3月中旬が1例、4月上旬が7例となり、東蒲原地方における産卵期は清棲（1965）が述べた中部山岳での事例より産卵期（3月上旬～5月下旬；最盛期4月下旬）の早いものが多いことがわ

かった。標高が低いほど春の訪れが早いいため、産卵開始が早まることは充分予想されるので、このような傾向が見られても特別不思議ではないであろう。

要約

福島県に隣接した新潟県東蒲原地方において、キバシリの生息状況を調査し、次の結果を得た。

1. 繁殖期における本種の生息域は標高50～1050mの範囲にあり、ブナの優占する天然林をはじめ一部は標高50～400mのコナラを中心とした二次林や、集落に隣接したスギ人工林にも生息していた。
2. 巣は標高110mに1例、120～325mに4例、そして680～1050mに4例認められ、ほぼ同緯度にある中部山岳の事例より低い標高地にあることがわかった。
3. 巣は地上から0.3～7.5m、平均3.5mの高さにあった。営巣場所は9例中、枯損木の裂孔部が1例、樹皮の脱落した陥没部が2例、そしてキツツキの古巣を利用したものが6例であった。

引用文献

- 羽田健三・中村登流. 1967. 志賀高原おたの申すの平における鳥類群集の生態学的研究 1. 鳥類の生活史. pp. 1108-1124. 築地書館, 東京.
- 羽田健三・山田拓. 1967. 志賀自然教育園の夏季鳥類目録. 鳥類の生活史. pp. 1161-1162. 築地書館, 東京.
- 羽田健三・山田拓・中村登流. 1968. 志賀高原おたの申すの平における鳥類群集の生態学的研究. 鳥類の生活史. pp. 1125-1129. 築地書館, 東京.
- 樋口広芳・盛岡弘之・山岸哲. 1997. 日本動物大百科 4 鳥類II. p. 133. 平凡社, 東京.
- 本間隆平. 1970. 妙高山および苗場山周辺における鳥類の生息状況調査報告書. 新潟県農林部治山課, 新潟市.
- 伊藤泰夫. 1986. キバシリの観察. 野鳥新潟 (64): 8.
- 加藤忠一. 1982. 東蒲原郡の鳥類. 東蒲自然同好会. 長谷川印刷, 新潟市.
- 清棲幸保. 1965. 日本鳥類大図鑑 I. pp. 284-287. 講談社, 東京.
- 国立公園協会. 1985. 自然公園環境調査 (上信越高原国立公園). 国立公園協会, 東京.
- 三石紘. 1973. 繁殖期における志賀高原の鳥類. 鳥類の生活史. pp. 1163-1187. 築地書館, 東京.
- 中村登流. 1983. 亜高山針葉樹林下縁の鳥類群集の推移. 山階鳥研報 66: 1-18.
- 新潟県. 1982. 鳥類生息状況調査報告書. 長谷川印刷, 新潟市.
- 新潟地方気象台. 1997. 新潟県最深積雪平年値. 新潟地方気象台観測課.
- 日本鳥学会. 1974. 日本鳥類目録改訂 5版. 学習研究社, 東京.
- 日本鳥学会. 2000. 日本鳥類目録改訂 6版. 土倉事務所, 京都市.
- 高野伸二. 1982. 日本産鳥類図鑑. 東海大学出版会, 東京.
- 植木久米雄. 1970. 妙高・火打山の鳥類. 妙高山および苗場山周辺における鳥類の生息状況調査報告書. 新潟県農林部治山課, 新潟市.

- 渡辺央. 2000. 三国峠地域の繁殖期における鳥類群集. 長岡市立科学博物館研究報告 35: 41-56.
- 渡部通. 1989. 上川村月山におけるキバシリの繁殖. 野鳥新潟 (73): 6-7.
- 渡部通. 1990. 東蒲原地方におけるキバシリの生態. 野鳥新潟 (76): 2-3.
- 渡部通. 1992. キバシリの繁殖と家族群の観察. 野鳥新潟 (82): 4.
- 渡部通. 1993. 人家周辺でキバシリが繁殖. 野鳥新潟 (85): 6.
- 渡部通. 1999. キバシリの繁殖記録. 日本野鳥の会新潟県支部報 (56): 2-3.
- 柳瀬昭彦. 1982. キバシリのすむブナ林. 日本野鳥の会新潟県支部報 (13): 1.

A Note on the distribution and breeding habits of Eurasian Tree Creepers in the northern district of Niigata Prefecture

Tohru Watanabe

1239-1 Tokonami, Tsugawa-machi, Higashi-Kanbara-Gun, Niigata 959-4403, Japan

A field survey was conducted in the northern district, Higashi-Kanbara-Gun, of Niigata Prefecture, during the period 1985-1999 to extend our knowledge about the distribution and breeding habits of Tree Creeper *Certhia familiaris*.

Major findings of the present survey are summarized as follows:

1. Their breeding habitat was a mountain with forest ranging from 50 to 1050m above sea level and included secondary forest dominated by oak *Quercus serrata*, and artificial cedar forest *Cryptomeria japonica* in the vicinity of a village.
2. Nine nests were found at 110-1050m a.s.l. (1 nest at 110m; 4 nests at 120-325m; 4 nests at 680-1050m). The altitude is considerably lower than those known previously in central Honshu, the main island of Japan.
3. The mean height of the nest site was 3.5m (0.3 to 7.5m, $N = 9$) above ground. Various sites for the nest hole were observed, including a natural hollow in a dead tree (1 nest), a depression under the bark (1 nest), and used nest holes of woodpeckers (6 nests).

Key words: breeding habits, *Certhia familiaris*, distribution, mountain forest, Niigata Prefecture, Tree Creeper